ペテロの否認を予告される

ルカ福音書22:31-34
（新改訳2017訳）

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。
22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」
22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」
22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏（にわとり）が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

【祈りながら考えよう】

（１）「神からの試練」と「サタンからの誘惑」とはどう違いますか。
（２）「ペテロは否認する」との主の予告に対してペテロは何と応答しましたか。何が問題ですか。
（３）私たちが立ち直ることができるのは何によりますか。

【解　説】

（１）神からの試練とサタンからの誘惑

人生には、いろいろな試みがある。試みというものは、神から与えられる場合には試練であり、私たちの信仰が試される。それに反して、サタンから来るものは誘惑であって、私たちの信仰を駄目にしようとする。

サタンが私たちを誘惑する場合、神の許しの下でそれをするのだということを知ることは、大切なこと。どんなことでも神がご存じないところで起こるものはないのだということを知ることは、私たちにとって大きな励ましになる。

麦をふるいにかける

（２）サタンが試みに遭わせることについて神の許しを得た

「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました」

サタンは弟子たち全員を《**麦のようにふるいにかける**》ことをずっと願っていた。そして、弟子たちを激しい試みに遭わせることについて、神の許しを得たということである。旧約聖書に出て来るヨブの場合も同じである。神に許しを得て、ヨブを試みに遭わせている。

弟子たちはサタンの試みの中を通されて、本当の信仰者とそうでない者とに分けられる。悩みや苦しみ、災難や誘惑が彼らを待ち受けている。

しかし、どんなにサタンが強力な存在であったとしても、たかだか神の許しの範囲内でしか活躍出来ないのだということを知っておく必要がある。

（３）大祭司の官邸の中庭で３回も主イエスを否認する

サタンが神の許しを得て、シモン・ペテロを激しい試みに遭わせるとは、実際的にはどういうことか。

それはその夜、主イエスが大祭司カヤパの官邸に引っ張って行かれ、そこで裁判を受けようとしておられる主の身の上を案じて、その中庭に入り込んだ時、召使いの女が

「この人も、イエスと一緒にいました」という一言に、

「いや、私はその人を知らない」

と言って、否んでしまったこと、その時のことを指している。

他の福音書によると、ペテロが主イエスのことで躓（つまず）くことの予告を主イエスがなさった時、彼は強がりを言って、決してそんなことをしないと言い張ったと記している。

マタイ福音書は、その問答は２回あったことを記している。２回とも、ペテロは主イエスの予告をはねのけている。それを、ルカはただ一言、ペテロの言葉としてここに記している。

「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております」

実に立派な言い分である。彼は自信を持ってそう言っている。

（４）自分のことを本当はよく知らない

ペテロには大きな誤算があった。その誤算は、自分のことを一番よく知っているのは自分なのだという考え方から来ている。私たちのことを本当によく知っているのは自分なのではなく、主イエスなのだということが分かるまで、私たちは失敗を繰り返さなければならない。

ペテロは、主イエスがペテロのこれからの行動について予告された時、彼の心の中には、次のような思いがあった。

「あなたは、私のことを知っていると言われますが、自分のことを一番知っているのはこの私です。たとい、あなたと一緒に死ななければならないことになっても、私は、決してあなたを知らないなどとは申しません」

一見、立派に見える彼の言葉の裏には、信仰の根本が分かっていないことを表明している思想がある。

（５）主イエスが主体

信仰とは、人間の不確かさについての理解がなければならない。自分自身が実に当てにならない、いいかげんな者なのだということの理解である。

自分のことを本当に知っているのは自分なのではなく、主イエスなのだということ、そして主イエスの支えがなければ、私たちはすぐに躓（つまず）いてしまう者なのだという理解である。

理解していると思っていることと、本当に理解していることとは別のこと。ペテロは理解していると思っていた。しかし、本当に理解していなかったから失敗したのである。

多くの人が失敗するのは、自分にとって受け入れやすいものだけを受け入れ、受け入れがたいものは受け入れない。それは信仰ではない。そういう姿勢は、いつも「自分が主体（中心）」となっていて、それで判断している。

信仰とは、「主イエスが主体（中心）」であり、私たちは主イエスの語られることに従順に従うことにほかならない。この信仰の原理が分からない人は、信仰を持っても、躓（つまず）いてばかりいなければならない。ペテロも本当に分かるまでは失敗を繰り返していた。

（６）主イエスにたしなめられる

ペテロが立派なことを言った時、主イエスはそれをたしなめて、こう言っておられる。

「ペテロ、あなたに言っておきます。今日、鶏（にわとり）が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います」

ルカはこれに対するペテロの言葉を記していないが、マタイは、この時、ペテロが主イエスの言われたことを打ち消して、立派な言葉を述べていることを記している。

《**ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」**》（**マタイ26:35**）

しかし、結局、主イエスの言われる通り、彼は失敗をした。

（７）立ち直りの恵み

①立ち直ることができたペテロ

ペテロは、立て続けに主イエスを否認、しかも3度も否認したにもかかわらず、彼はまた立ち直ることが出来た。どうしてあれほどひどい主イエス否認の罪にもかかわらず、彼は滅びなかったのか。それに反して、主イエスを敵の手に売り渡したイスカリオテのユダは滅んでしまったのか。

どちらも主イエスの弟子であったのに、一方は滅びず、他方は滅んでしまったのか。それは、ペテロには信仰があったのに、イスカリオテのユダには信仰がなかったからである。

②主イエスのとりなしの祈り

主は、シモン・ペテロに言われた。　**「わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました」**

ペテロには信仰があったことが分かる。ペテロは悔い改めて立ち直った。それは主イエスが彼のために父なる神に向かってとりなしの祈りをしたからにほかならない。

主イエスが、ペテロの信仰がなくならないように、**「あなたのために祈りました」**とは何とすばらしいことばだろう。私たちは何かに躓（つまず）いた時、自分の力で立ち直ることは出来ない。主イエスが立ち直らせて下さる。私たちの信仰がなくならないように祈っていて下さる主イエスは、私たちを立ち直らせてくださる。あきらめてはいけない。

（８）人生はやり直しが出来る

主イエスは、シモン・ペテロにこう言われた。「**あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい**」

それは、ペテロにだけ与えられた使命ではない。試みを受け、失敗し、躓（つまず）き、倒れた人が立ち直った時、同じ使命が今日の私たちにも与えられていると言ってよい。

人生はやり直しが出来る。どんなに失敗が大きくても、やり直すことが出来る。主イエスがそうさせてくださる。主イエスがあなたの新しい人生スタートのために祈り、それが出来るように、助けて下さる。